

国土交通省近畿地方整備局  
淀川工事事務所長 宮本 博司 様

八幡市長 牟礼 勝弥



## 河川整備計画（第1稿）に対する意見について

平素は、市行政に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

先日ご説明いただきました「河川整備計画（第1稿）」につきましては、上津屋地区における水辺プラザの整備と堤防強化を取り入れていただきましたことに御礼申し上げますとともに、下記のとおり意見を提出させていただきますので、よろしくお願ひします。

### 記

#### 1 基本的視点

かつて、八幡市は淀川舟運により京都と大阪とを結ぶ全国有数の交流拠点として賑わい、沿線住民は生活の場として淀川と関わりを持っていましたが、近年その関係は疎遠となっている。

河川空間は、都市に憩いや安らぎをもたらすとともに、市民や来訪者の交流の場としても重要な役割を担っている。舟運の復活を通して歴史的文化的な背景を持つ淀川との関わりを深め、川からの視点を確保することが市民の流域意識や環境意識を醸成するとともに、淀川への愛着、更には川に向いたまちづくりの推進につながると考える。

#### 2 沿川全体としての期待、計画

淀川三川合流部付近は、「原淀川」の風景を数多く残し、わが国で唯一の三本の大河川が合流する広大な空間が広がる地である。同時に、貴重な葦原が残されており、京阪神都市圏でも希少である雄大かつ特色のある景観やアメニティ軸があることなど、近隣住民の財産として、その保全と活用が求められている。

近年の都市化の進展に伴い、緑とオープンスペースは、住民の生活環境の改善にとって重要な役割を担っており、また余暇時間の増大とともに自然に接して行われるスポーツ、レクリエーション活動はますます活発になるなかで、舟運復活の期待も大きくなっ

ている。

さらに、阪神・淡路大震災においては、公園緑地の担う防災機能が再認識されたとともに、道路や橋の寸断に影響されない舟運が見直されているところである。

こうした状況の中で、自然や歴史風土を活かした公園及び船着場の整備は、安全でうるおいのある都市環境を確保し、観光船の運航など、住民の期待に応える上からもきわめて重要なことである。

### 3 八幡市の期待、計画

第3次八幡市総合計画において、本市と京都・大阪都市圏とをつなぐ玄関口として、この三川合流部付近や京阪八幡市駅一帯を北部交流拠点として位置付けている。これは、自然・歴史環境などの特性を活かした集客力の高い公園整備を進めていただき、河川機能、広域交通機能、淀川舟運整備事業等との連携や学習、治水、防災など多機能を持つ府県を越えた圏域を担う空間の創出を目指したものである。

1. 2 kmの背割堤には、250本の桜並木が続き、桜の季節には京阪神からの花見客で賑わい、毎年5万人から7万人の方が訪れている。本市としては、この時期の交通渋滞が問題になっており、水上交通に期待をしている。また、川面から見る桜は、格別の風情があることから、花見船のなども期待したい。

平成15年度には、京都第二外環状道路が国道1号から名神高速道路大山崎インターの間で供用されることに伴い、これまで淀川に隔てられ、比較的交流の薄かった淀川右岸地域との交流が増大するものと期待をしており、舟運が復活すればその効果はさらに大きくなることは確実である。

### 4 舟運に向けての現状と課題

枚方から三川合流部までは、土砂の堆積も多く、船舶航行に必要な水深が確保されず、また、淀川上流域の三川合流部には船着場未設置の状況である。

河口から三川合流部まで船舶の航行が可能な航路を確保していただくとともに、八幡市域において2ヶ所の船着場を新設していただきたい。

1つは、枚方市と京都市を結ぶ宇治川左岸の背割堤入り口付近（図面A）に設置していただき、京都・大阪間の水運「三十石船」の名残を残したい。なお、この場所には約70台収容の駐車場が整備されており、すぐにでも活用できる場所である。

もう1つは、橋本の渡し跡周辺（図面B）に設置をお願いしたい。堤外地への侵入道路等の整備など課題としてあるが、舟運に防災機能を持たせた場合、木津川御幸橋を渡った船着場よりも、橋に影響されない淀川左岸に船着場が必要となるためである。

淀川の舟運復活に向けて、格段の配慮がなされるようお願いしたい。

5 治水対策の強化

八幡市民の生活を守るためにも、今後も引き続き治水対策の強化を図っていただきたい。

6 迷惑行為の対策

府道八幡城陽線上津屋橋（通称「流れ橋」）付近の四輪駆動者が堤外地へ入る行為の規制等の対策を講じていただきたい。

新希望場着場 (八幡市)

